

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム 愛らんど		
所在地	佐賀市蓮池町大字小松843番地2		
自己評価作成日	令和2年7月25日	評価結果市町村受理日	令和3年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気の中で、個々のペースや意思決定を尊重し、残存能力の活用を行いながら、お一人お一人にあったお手伝いを見つけ、それぞれの役割を持ち、和気あいあいと暮らして頂いております。季節の行事や花を見に出かけたり、買い物などで外出支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅に囲まれ、川沿いにあり、その先には田園が広がり、自然の風景を眺望できる木造平屋建てのホームである。窓は、二重窓で、監視カメラを3ヶ所に設置し、防犯対策ができています。建物が、台風や地震に対応した作りになっており、地区の避難指定にもなっている。ホーム内は、床暖房を完備し、和風木彫で、明るく風通しがよく、清掃も行き届いている。入居者は、比較的元気な人が多く、掃除や草取り、料理の下ごしらえや片付け等、職員と一緒にやっている。また、管理者交代と職員の入れ替わりで、分からないことを入居者が、教えてくれる等、アットホームな雰囲気である。職員間も、相談しやすく働き易い、やりがいのある職場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所名変更の予定であるが実施時期は未定。したがって以前の理念のままに掲示している。	事業所名を変更予定であるが、まだ未定である。管理者交代に伴い、経営方針をタイムカードの所と事務所に設置している。新人職員には、入職時に説明を行っている。管理者と職員は、入居者に寄り添いながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大雨の時声を掛けて頂いたり、これまでは無かった行事のお誘いがあつたりと地区の方との関係性は良くなっている。歌のボランティアも声を掛けて頂いた。今後も地道な関係性の構築を行っていきたい。	敬老会で地域からプレゼントを頂いた。ボランティアは、新型コロナウイルス感染予防の為、呼んでいない。天気の良い日には、頻回に散歩に出かけ、住民の方に挨拶をしている。管理者の意向としては、今後、地域との交流の機会を増やしていく考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に比べると地区の方との関係性は良くなってきている。もっと関係性がよくなればその先に地域貢献が見えてくると思われる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新年度になってからコロナウイルス対策の為、会議は行わず文書の送付を行った。7月より通常の開催とした。ご家族や地区の方に毎回案内はしているが参加がないので、今後参加して頂く為の工夫をしていきたい。	ホームの状況や報告を行い、行政からの意見や助言は、サービスの向上に活かしている。記録も整理され、会議も和やかに出来ているが、地域住民の参加はこれからである。	地区の代表の方への関わりを深め、運営推進協議会に地域の方の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事あるごとに中部広域連合の指導係、佐賀市福祉課に相談し、指導を仰いでいる。	必要に応じて関係機関へ相談をし、アドバイスを受ける等、協力関係の構築が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本姿勢として身体拘束を行わないケアの実践としており、実際にも行ってない。勉強会で取り上げたり、廃止委員会も2ヶ月に1度運営推進会議の中で開催している。	日中は玄関を施錠していない。身体拘束はしておらず、しない方針であることを職員に伝えている。身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回、勉強会は毎月開催する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に度は虐待の勉強会を開いて、スタッフの意識喚起につなげている。スタッフは不適切な言動があれば相互間チェックを行なっている。又報告があった場合には当事者と個人的に話をすることもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に関しては適用者もいないため身近に感じられず勉強会でも取り上げていなかったが、今後は勉強会を行い理解を深めて行く予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分な時間をとって、分かり易いように例を上げたりして細かに説明し同意を得ている。もし分からないことがあれば後日にでも聞いて頂くように話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置しているが意見が入っていたことはない。ご家族様の面会の際に利用者様の近況や施設の行事等のお話をし、何かご意見があれば、対応できるものは即対応するようにしている。	家族とは、面会時や電話対応を密に行い、直接話せる機会を設けている。近況報告を行い、会話の中で出された意見は、職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するスタッフ会議の中でスタッフに意見を求めてたり、必要な場合には都度話し合ってもらい意見を運営に反映している。	月1回のスタッフ会議時に、職員の意見や要望を聞く機会を設け、対応している。また、日常業務の中でも、その都度話し合い、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が給与見直しを行っている。又、働き方は家庭の事情等個々の希望にそったシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用した正社員が定着せずに退職することが続き、困っている状況である。在職中のスタッフには研修参加できる人的余裕が無く研修参加出来ていない。正社員採用が出来れば研修参加をしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は無い為、情報交換、ネットワーク作りは今後の課題である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面時からご家族様や本人様に安心して頂ける関係づくりを心掛けている。これまでの生活を出来るだけ尊重し、ご家族の負担も軽減できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階では色々な疑問、質問にはスピーディーに対応するようにしている。困られている場合にはこちらから提案することも有る。又、お願いをすることも有る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご家族様、本人様から生活するうえでのご希望を伺って暫定プランを作成し、初期段階のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中心は利用者様なので、スタッフはあくまでサポート役とし、本人様の意思決定を尊重している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少しでも利用者様とご家族との絆をつなぐためにその月の利用者様の生活や活動が分かるように毎月請求書と共に愛らんどだよりや書かれた作品などをご家族に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の兄弟姉妹との面会やお手紙を出される時のサポートを行っている。とても楽しみにされて活力にもつながっている。	親族等とは、新型コロナウイルス感染症予防の為、ほとんど電話対応を行っている。今後、要望があれば、冠婚葬祭や公園など、馴染みの人や場所との関係支援に努めていく意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々個性を持っているので、小さなトラブルはあるが、共同生活者として関係性がこじれないようにスタッフが配慮をしている。又、こんなことがありますとご家族にも報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の希望で転居された方がいたが、転居後の関係性は持続できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が選べることは意思決定できるような関わりを重視している。困難な方にはスタッフが選択している。	言葉で表現できる入居者がほとんどで、日頃の会話の中で把握している。困難な方には、過去の記録や家族に聞いたり、表情やしぐさにより本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで生活歴や趣味嗜好、生活習慣等の把握に努め、面会時のご家族様からも情報収集をしている。日々の生活の中に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれに違う人生を過ごしてこられ、違って当然なので、強要はせず個性を尊重している。出来ることはご自分でして頂いている。又お手伝いもお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、ケアマネが一体となってプラン作成に取り組んでいる。医師の意見、ご家族の希望も取り入れ必要時には見直しをしたり、プランの追加もしている。	本人や家族の意向を取り入れ、スタッフや必要な関係者と話し合い、一人ひとりに合った介護計画を作成されている。また、会議以外でも、その都度見直しを行っている。日々の記録は、プランを見ながら支援ができるよう工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践は介護記録に残している。又送りノートも活用し情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日、1週間のスケジュールは決めておらず、大まかなイベント以外はその時々々に計画したりしている。レクリエーション、散歩やドライブ等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつ地域の方に笑顔を頂けるようになってきており、将来的には地域と協働できるようになればと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状が安定されている方は2週間に1回の往診を受けられている。必要があれば他の方の往診日やドクターコール等で24時間対応して頂いている。また他科受診はご家族様の希望を尊重しサポートしている。	受診は、入居前のかかりつけ医でも可能だが、ほとんどが、ホームの協力医療機関を利用している。協力医療機関では、定期的な往診と24時間対応で、適切な医療が受けられるよう体制作りができています。また、専門医への受診支援もなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師スタッフには看護師としての視点での勤務をお願いし、ケアスタッフへの助言やかかりつけ医への情報提供をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はご家族様や病院スタッフと連携し、利用者やご家族様が困らないように努めている。往診の医療スタッフや薬局のスタッフとは良い関係を築くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていなかったが希望される利用者があり診取りを行うようにした。勉強会を開いたり往診の医師に助言をもらった。その時期になれば対応についてご家族様の希望に添えるように話し合いや勉強会を開くようにする。	現在、看取りは行っていません。希望があれば、出来る範囲で対応する事を説明しています。今後、本人・家族と話し合いを重ねながら、支援に取り組んでいく方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異変があればすぐにドクターコールにて指示を仰ぎ、指示に従うようになっている。訓練としては行っていません。看護師による勉強会を開きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大雨で横の河川氾濫の恐れがある場合には避難していたが、コロナの対応で避難は行わなかった。避難時の必要物品はすぐにわかるように常時見える箇所に掲載、今回も準備していた。	窓は二重窓で防音効果もあり、建物が台風や地震に対応した作りとなっており、地区の避難場所となっている。避難訓練を年2回行っている。現在、日中を想定した訓練を重点的に行っているため、夜間想定訓練はこれからである。	日中想定訓練は出来ているが、夜間想定と地域住民との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度は簡単に身につかないが繰り返し勉強会を行っている。不適切なことはスタッフ会議等で取り上げている。	管理者は、入居者の状況に応じて、座って話を聞くようにしている。部屋でのオムツ交換時は、戸を閉めたり、トイレ誘導後は、一旦その場を離れるなど、羞恥心にも配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定はとても大事な要素であり、重要視している。選べる状況を作ったり、利用者が選びやすいように聞き方を工夫したり、迷われる時にはアドバイスすることも有る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方はご自由にして頂いている。何かをするときには声をかけてお誘いするが参加は自由としている。又、出来るだけご希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でお好きなように着かえをされるが、季節に合わないようなときにはさりげなくアドバイスしている。2択だと選びやすいので工夫したり、自己選択出来ない方はスタッフが選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる食べ物の話をしたり、食べたいものをお聞きしたりして食事を楽しめるように工夫している。食事の片づけはスタッフと利用者が一緒にやっている。	食事は、食べたい物を聞いて、ミキサー食やとろみ、刻み食など手作りでやっている。下ごしらえや片つけや皿洗い等、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は記録しており、医師にデータを求められた時に提供している。医師に栄養面での指示を貰った時は指示に従っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は毎食後に口腔ケアをされている。又介助が必要な方は夕食後に毎日行っている。義歯調節は歯科に連絡し訪問してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排せつ介助を実践している。利用者様の残存能力に合わせて、無理のないようにしている。使用する排泄用品も都度検診している。	排泄チェック表の記録を利用して、声かけを行ったり、排泄サインに応じて、トイレでの排泄を促すことで、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤使用も含め、便秘には気を配っている。ヤクルト、ヨーグルト、牛乳、野菜ジュース等自然排便につなげる工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人のスタッフが最初から最後まで関わりゆっくり落ち着いた入浴できている。介助は必要な箇所だけに留め、持てる力を引き出すようにしている。必要な場合には2人介助も行っている。	週3回入浴可能で、気心の知れた入居者同士で入浴することもある。浴室は広い窓ガラスで、横に流れる川や自然の景色を見ながら、ゆっくり会話をするなど楽しまれている。職員は、長湯をしない様声かけを行ったり、介助をしたり、個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースを尊重し就寝時間も午睡もそれぞれであり強要する事は無い。眠れない時にはゆっくりお話を聞いたりして、不安な気持ちを解消できるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や中止等があれば、観察の記録や注意する事等申し送りノートに記載して周知徹底している。観察したことや変更後の様子は往診時に医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や嗜好も個々で異なるので、お誘いはしても強要することはない。食べたいものもお聞きして提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ自粛で外出も出来ていない。施設周辺の散歩は解禁となり時間をみて散歩している。家族面会もずっと制限していたが、短時間でお願いしている。まだ自宅への外出は行っていない。	天気の良い日は、ほぼ毎日散歩に出かけている。今後は、希望の場所や地域の公園でのザリガニ釣りを予定するなど、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失時の問題があり、現金は所持は行わないようにしており、所持への支援は行っていない。一人だけ現金所持をされている方があり、その方にはご家族様も承知で自己管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われた時にはいつでもかけている。又お手紙も書きたいときに書かれているので宛名書きや投かん等援助している。間が空いたときには声掛けして勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やTVの音量、空調等居心地がよいように配慮している。又、壁面には季節を感じられるような展示を行ったり、利用者の作品を展示している。	夏は、扇風機とエアコンの同時使用、冬は、床暖房完備の為、温度と湿度の管理ができ快適に過ごさせている。リビングは、明るく整理整頓され、散歩中に取った花が飾られている。廊下には、ソファを設置し、壁には、みんなで作った作品や写真が貼ってあり、居心地よく過ごせる工夫をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間もご自分の定位置が決まっており、関係性がよく現れている。だいたいいつも同じ場所で過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある家具や調度品の持ち込みを勧めているが、家族の考えも様々で持って来られる方は少ない。	持ち込みは自由である。必要な物は、本人や家族と相談しながら購入している。ウッドデッキもあり、明るくすっきりしている。ペットの配置にも工夫され居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の事を良く知り、生活場面において出来ることをして頂いて、残存能力の活用を行っている。		